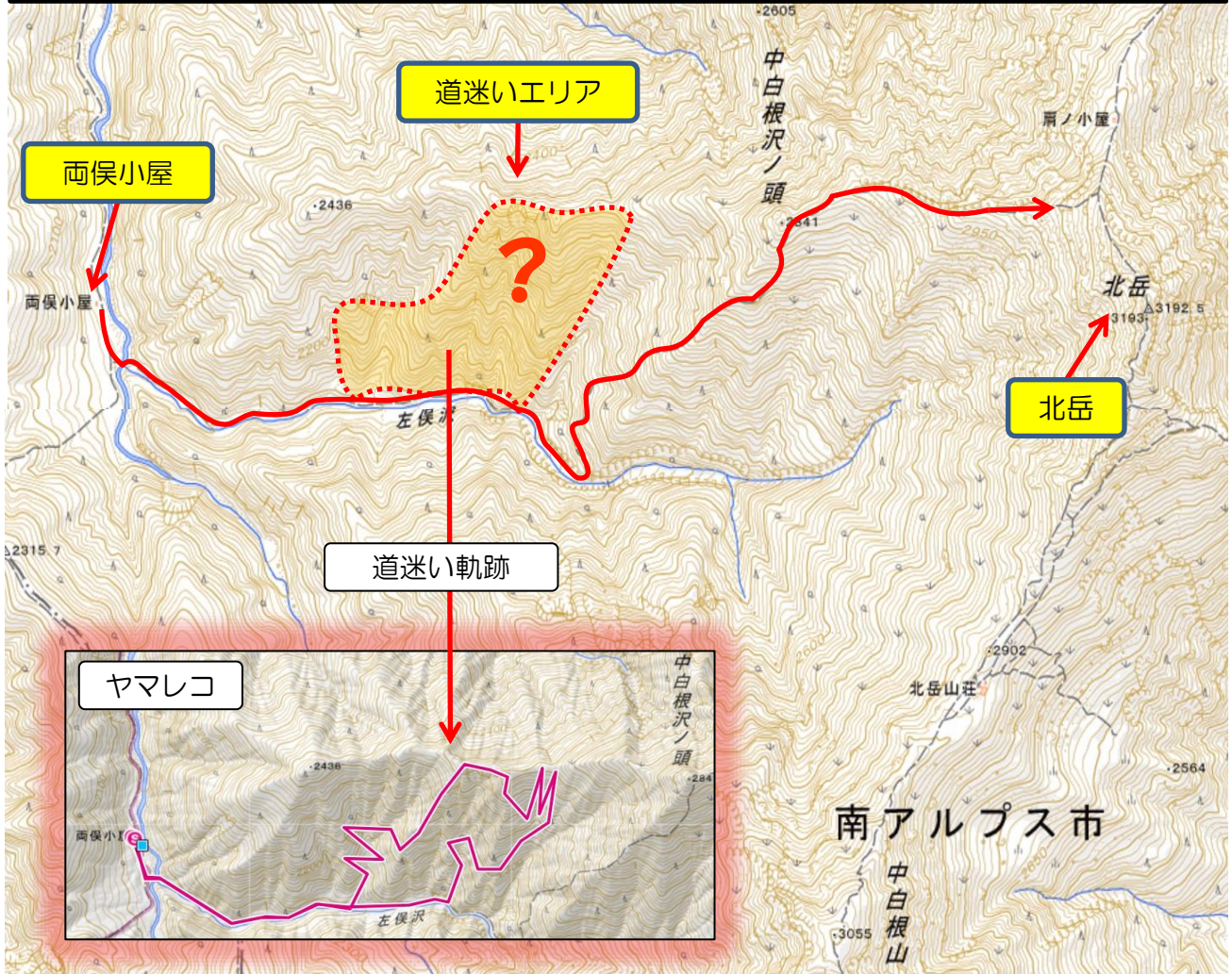


両俣小屋道迷い(2010年7月)

渡渉を繰り返し、道らしい急斜面を登った。根拠なく登ったり、下ったりした。結局、時間が過ぎ登山道に出たので両俣小屋に戻ることにした。



解説

目印見当たらない、道に迷ったかな?と思ったら、じっくり地図コンパスで今後の身の振り考えたほうがいい。というか下りて戻ったほうがいい。

「道に迷った=今自分は遭難している」とまず己を説得することに15分はかける。行程に影響するから、と迷ったまま先に進むより、戻ったほうが絶対に早い。なにより迷ってしまったら、進むべき道は向かう先には無い。「おや!正しいルートに出られたぞ!」は起こらない。唯一の正しいルートは、お前が登ってきた道だ!ゴールは下だ!

「もしかしてここ登ったら山頂行けるんじゃない?」はあり得ない。「ここは行けなかったけど、あっちなら通じてるんじゃない?」もあり得ない。藪漕ぎすらできないくらい木が絡みあってたり、岩の崖クライミングしなきゃいけないかったり、まず上には行けない。上に登ること自体が気持ちよすぎて、これはおかしいなどは半分思いつつ落ちたら死ぬ系の急登でも登りたくなる。確かに登りは楽しい。しかし降りる時はその3倍やばいことを思い出せ。(HP参照)

そのとおり。「もしかしたら、行ける!」は絶対ない。「降りるときは、3倍やばい!」下りで滑落し身動きが取れず、亡くなった登山者は多い。